

テーマ：「中国 EV 業界の最新事情について」

日時：2019 年 11 月 14 日（木）

（一社）東海日中貿易センター
専務理事 大野大介

【講演内容要旨】

今や世界第 1 位の自動車市場を有する中国は、昨年（2018 年）の販売台数が前年比 2.8% 減となるものの 2,801.1 万台となった。第 2 位の米国は 1,770.1 万台、第 3 位の日本は 527.7 万台である。急速に発展した中国の自動車産業には、道路事情、駐車場の確保などハード面でも多くの問題を抱えているが、とりわけ環境問題、エネルギー問題への解決が急務となっている。

世界の一部の国、例えばフランスやデンマークなどでガソリン車やディーゼル車など化石燃料車の販売を禁止する動きがある中で、中国も化石燃料車の販売を全面的に禁止するための規制導入、タイムテーブルの作成に余念がない。

中国では、電気自動車（以下、EV 車）の開発を国家が計画し、25 年までに EV 車の販売台数が自動車販売全体の 5 分の 1 に達する目標を掲げている。単純に中国の自動車販売が 3,000 万台として、そのうち 600 万台が EV 車の市場規模となる。

更に中国は、35 年までに国内で販売される自動車全体の 60% を新エネ車（EV 車及び PHEV 車）とする目標を検討していると言われている。

2018 年の中国の新エネ車の販売台数は 125.6 万台で、まだ計画の 5 分の 1 に過ぎない。しかし、直近 5 年をみると 14 年は 7.5 万台、15 年は 33.1 万台、16 年は 50.7 万台、17 年は 77.7 万台、18 年は 125.6 万台であるので、超ハイスピードで新エネ車市場が成長していることが理解できる。

然しながら、2018 年の新エネ車販売比率は 4.5% 程度に過ぎず、35 年の目標はこの 13 倍強に相当する。この目標値は実現可能と疑問が残る。その為のエネルギー＝バッテリーの生産は需要を満たすことができるのだろうか。

私自身、中国の大手自動車メーカーを何度も訪問する中で、中国ローカルの EV 車の開発、生産状況を見聞きし、テストコースを専用のドライバーによる走行体験もした。最近は、中国に出張すると中国製 EV 車に乗る機会が増えており、乗り心地や走行性能の良さには驚かされるものがあり、主要な中国 EV 車メーカーを紹介する。

また、中国では自動運転試験走行に力が入っており、既に試験段階から実用段階へと入っているソフト＋ハードもある。更に、中国初の水素ステーション及びバスと小型トラックによる FCV 車のテスト走行が始まっている中国新エネ車の最新事情を紹介する。